

指導力評価に関するチェックリストの項目一覧（案）

【チェックリストに関する説明】

- ① 本資料では、指導力評価の対象とする日本語教育プログラムの実施に携わる者を「実施者」といい、実施者を（１）学習者に対する直接的な日本語の指導に携わる者（以下「指導者」という。）と（２）教室活動全体の企画や教室外の関係者とのやり取りなど直接的な日本語の指導以外の企画・連絡・調整等に携わる者（以下「地域日本語教育コーディネーター」という）に分けて考える。これらはいずれも役割に対する名称であり、特定の勤務形態やポストにある者を示すものではない。
- ② 本資料は、実施者（指導者及び地域日本語教育コーディネーター）に求められる能力について検討するため、「生活日本語の指導力の評価に関する調査研究報告書」（平成23年3月、財団法人日本国際教育支援協会）に掲載されている「生活日本語の学習を支援する教室運営のためのチェックリスト（案） version 2」及び「生活者日本語の指導能力の評価に関する調査研究」（平成23年3月、公益社団法人国際日本語普及協会）の「指導者can-doリストA」を取り上げ、「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック」の「4 日本語教育プログラムの作成手順」の項目に沿って並べたものを土台にしたものである。
- ③ 本資料は、日本語教育プログラムをカリキュラム案等を活用して実施する際、「PLAN（計画）-DO（実施）-CHECK（点検）-ACTION（改善）」の四つの段階それぞれで必要な能力をチェックリストとして示している。

【チェックリストの活用方法に関する説明】

- ① チェックリストで取り上げる項目は、それぞれの地域の日本語教育プログラムの実施形態や実施に関わる人や役割に合わせて選択することを想定している。
- ② なお、評価はチェックリストによる評価結果をポートフォリオに記録するという形で行う自己評価を念頭に置いている。

【作業が必要と考えられる項目に関する説明】

- ① 「△」はこれまでカリキュラム案等で取り上げてきていない発想に基づく項目に対して付しており、カリキュラム案全体の方針と齟齬を来さないような表現に修正する必要があるものを示している。
- ② 「●」は抽象度が高いか内容の理解が難しい項目に対して付しており、チェックリストから外すか、表現の工夫を行って残すか検討の必要があるものを示している。
- ③ 「✓」は組織の体制や環境に関する項目であり、日本語教育プログラムを実施する際に必要となる能力に関する実施者の自己評価の項目としてなじまないと考えられるものに対して付しており、チェックリストから外すか、表現の工夫を行って残すか検討の必要があるものを示している。

PLAN-DO- CHECK-ACTIONの別

指導力評価に関するチェックリストの項目

PLAN(企画)

1. 域内の外国人の状況・ニーズ、地域のリソース等の把握

1)対象とする学習者の属性や数の把握

(1)学習者に関する情報を収集している

- ・ 学習者の属性（年齢、職業、学習履歴など）を把握している
- ・ 学習者の数を把握している
- ・ 学習者が置かれている生活環境を把握している
- ・ 学習者の日常の使用言語と使用場면을把握している
- ・ 学習者が日本語のやり取りを求められる場면을把握している
- ・ 学習者が今何ができて何ができないかを的確に把握している

- ・ 学習者が日本語学習に割くことのできる時間・時間帯を把握している
- ・ 学習者を取り巻く学習環境（辞書やオーディオ機器・PCなどを所有しているか、日本語学習に協力してくれる人はいるかなど）を把握している

2)生活課題の把握

(2)学習者ニーズや生活課題に関する情報を収集している

- ・ 学習者が学習活動に求めるものや目的、目標等を的確に把握している
- ✓ 学習者の意向や要望をよく聞く仕組みを作っている
- ✓ 学習者から学習に関する相談を定期的に受ける仕組みを作っている
- ・ 学習者が生活の中で「今すぐできないと困る」課題を把握している
- ・ 学習者が生活の中で「今後できるようになりたい」課題を把握している
- ・ 学習者が生活の中で「いつかはできるようになりたい」課題を把握している

3)地域のリソースの把握

(3)地域日本語教育コーディネーターの配置と役割が適切である

- ✓ 地域日本語教育コーディネーターが誰か明確にしている
- ✓ 地域日本語教育コーディネーターの役割が地域日本語教育コーディネーター、指導者、協力者等の関係者間で理解されている
- ・ 地域日本語教育コーディネーターは指導者と十分にコミュニケーションが取れている
- ✓ 地域日本語教育コーディネーターを育成する仕組みを作っている
- ✓ 地域日本語教育コーディネーターが自ら学ぶ機会を確保している

(4)地域日本語教育コーディネーター本人の姿勢

- △ 世界情勢、外国人問題、日本語教育等に関わる情報を広く収集し、学び続ける姿勢を持っている
- △ 様々な視点から外国人問題を見ている
- △ 教室をコミュニティー(小さな社会)として育てるという視点を持っている
 - ・ 日々の活動を、Plan- Do - Check - Action の視点で観察、分析、評価をしている
 - ・ 指導者、協力者や他の地域日本語教育コーディネーターと密に連携を取っている
 - ・ 地域の協力者や様々な分野の専門家と協働して教室活動を行っている

(5)指導者の育成

- ・ 教室の理念を理解し、教室に主体的に関わろうとする人材を育成している
- 指導者に不足しているものを見極め、それを補うための研修を企画し、実施している
- ・ 地域の人材育成に関する講座やセミナーの情報を集め、適切なものを指導者に紹介している
- ・ 学習者の一部が指導者及び協力者として育つよう支えている
- ・ 活動を通して、指導者の意識の変容を促し、学習者と共に学ぶという気持ちや姿勢を育成している
- 言語学習を促進する観点から指導者を育成している
- ・ 多様な観点による言語教育や他分野（社会福祉など）の理論の実践に関心を持ち、学ぶ姿勢を持っている

(6)指導者の配置と役割が適切である

- ・ 日本語教育について経験・知識・能力がある指導者を確保している
- ・ 外国人支援について経験・知識・能力がある指導者を確保している
- ✓ 指導者を育成する仕組みを作っている
- ✓ 指導者と活動の理念や大事にしたい考え方を確認し合う機会を設けている
- ・ 指導者に何を求めるかが明確である
- ・ その日の活動を担当する指導者が決まっている

(7)日本語教室のために適切な場所がある

- ・ 日本語教室を行う場所を確保している
- ・ 学習者やその他の人が集まりやすいように場所の利便性を考慮している
- ・ 移動手段を持たない学習者が通いやすいように工夫をしている
- ・ 活動場所では幼児や年少者、老人等の安全性に配慮している

<p>(8)日本語教室を行うための適切な環境を準備している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者が通いやすい時間と曜日に活動／教室を開設している ・ 日本語教室を行う場所には関係者以外のグループも別の活動を行っているなど、他のコミュニティと接する機会を設けている ・ 活動に使用するいすや机などの使い勝手（大きさや、移動性など）がよい ・ 活動を行うのに十分な広さを確保している ・ 必要に応じて、ホワイトボードやオーディオ機器等の教具・機器を確保できるようになっている ・ 必要に応じて、PC環境やインターネット環境を確保できるようになっている
<p>(9)日本語教室をより良くするための地域の様々な情報を収集している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの活動地域にいる日本語教育の専門家を把握している ・ 自分たちの活動メンバーや関係者以外の外部の協力者を確保している ・ 自分たちの活動に協力してくれる組織を確保している ● 外国人支援を通して解決できる地域の課題を理解する仕組みがある
<p>(10)教材、情報の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域での生活に必要な多言語情報やパンフレット、案内図、ちらし、地図等を用意している ・ テーマにふさわしいビデオを準備し、活用している ・ 地域の公共サービスの情報を収集し、具体的な知識を持っている ・ 地域の行事の情報を収集し、学習者に紹介している ・ 教材例集にあるような生活に必要な情報を準備している

2. 日本語教室の目的や設置場所等についての検討

<p>4)日本語教室の目的を設定</p> <p>(11)カリキュラム(中期的な学習計画)の目的が適切である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習目標を明文化している ● 必要に応じて学習期間に区切りを付け、短期的・中期的な目標を立てるようにしている ● 学習者の状況に合わせ、短期・中期・長期それぞれの学習目標を明確にする機会を設けている ・ 学習内容の全体像を関係者間で共有できるように明文化している
<p>5)学習者のニーズ、地域のリソースに基づいた教室の設置</p> <p>(12)教室の企画、立ち上げを準備している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の外国人や既存の日本語学習支援体制の状況を調査し、把握している ・ 地域の実情に合わせた教室を企画し、関係機関に提案している ・ 地域の諸機関や他の機関の（地域日本語教育）コーディネーターと協働して教室を立ち上げる用意がある
<p>(13)活動の現状を共有・活用している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 活動の理念や目的等を共有する仕組みを作っている ✓ 学習者の基礎的な情報や学習の進捗情報を共有する仕組みを作っている ✓ 教室の場所や時間、学習内容について定期的に関係者間で検討する仕組みを作っている
<p>(14)先行する事例を共有・活用している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先行する他地域の事例や、自分たちの過去の取り組みを何らかの形でまとめている ・ まとめられた情報を使いやすいように分類・整理し一括管理している ・ 教室活動の参考になる資料を豊富に揃えている ・ インターネット等を活用して、教室活動の参考資料を探せるよう、情報環境を整えている
<p>(15)活動の意義や内容を発信している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 活動内容を広く一般に情報発信する仕組みを作っている ・ 活動内容が参加を希望する学習者に届きやすいように、情報発信の方法を工夫している
<p>(16)他機関や地域と連携している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教室の企画、立ち上げ、運営に関わる地域の諸機関と人的ネットワークを構築し、維持している ✓ 地域住民が教室に関われるような仕組み、仕掛けを作っている ・ 教室の必要性や活動内容を他機関や地域に発信している

3. 具体的な日本語教育プログラムの作成

6) 学習内容, 学習順序, 学習時間, 指導者・協力者, 教室活動について検討

(17)カリキュラム(中期的な学習計画)の内容が適切である

- 「生活上の行為の事例の一覧」等を活用し、地域の実情や学習者のニーズに合わせ、必要な事項を優先させる形で学習内容を選択している
- 「標準的なカリキュラム案」等を参照しながら、学習者と指導者が共通に持つ課題を活動のテーマに取り入れている

- 学習者のライフステージを考慮して活動をデザインしている
- 学習者が活動テーマを選んだり、活動の進行に貢献したりできる活動をデザインしている

(18)カリキュラム(中期的な学習計画)の教室活動が適切である

- 多様な学習者に対応できるように、活動や学習の方法を工夫している
- 言語学習の活動を社会参加の視点から多面的に捉え、段階制を踏まえてデザインしている
- 学習を進めるにあたって、学習者の日本語レベルを考慮している
- 学習者の生活上のニーズを考慮して学習活動を行えるようにしている
- 地域日本語教育コーディネーターと指導者の間で、日本語指導や学習活動の方針、方法を明確にしている
- 学習者が実生活で抱えている課題を把握し、妥当なニーズに設定し直して、活動として作り上げている
- 教室活動の実施条件に合わせて、日本語の学習を促進する活動をデザインしている
- 学習者の日本語力を考慮して活動をデザインしている
- 教室運営を取り巻く事情を活用したり、補完したりすることが可能な活動をデザインしている
- 教室内での活動と教室の外での活動の連携を図っている
- 学習者の学習スタイルや言語学習のストラテジーを踏まえた活動をデザインしている
- 参加者全員が対等な関係を壊さずに行える活動をデザインしている
- 学習者と指導者の協働によって行われる活動をデザインしている
- デザインした活動を実践するための環境を整えている
- 1回ごとの活動を組み立てている

(19)カリキュラム(中期的な学習計画)の時間設定が適切である

- 地域や日本語教室、学習者の状況に合わせた時間設定をしている

(20)カリキュラム(中期的な学習計画)の学習順序が適切である

- 学習者の状況や背景、ニーズを踏まえた学習順序を設定している

(21)毎回の活動計画や学習計画が適切である

- 毎回の学習内容を何らかの形で明文化している
- 学習者にとって興味深い内容になるよう工夫している

(22)教材や教具を適切に活用している

- 学習者の学習目的を達成するために効果的な教材や教具等を用意している
- 学習に市販のものを使用する際には、著作物の取り扱いを法律に沿って行っている
- 学習者の生活課題や教室活動の目標に具体的に即した教材を準備し活用している
- 教室活動のねらいに具体的・個別的に即した教材を準備し活用している
- 教室活動の前に必要な準備や関連情報の確認をして教室活動に活用している

(23)学習支援／教室の準備をしている

- 前回の活動内容や学習内容を把握している
- 今回の活動内容や学習目的を明確にしている
- 今回の活動や学習に関連する教材や教具・資料を準備している
- 活動や学習の流れや時間配分を考えている
- 計画した内容や流れが予定通りにいかなかったときの代案を考えている

(24)学習支援／教室環境を整えている

- 学習者数や活動・学習内容によって教室環境を準備している

- ・必要な教具や資料など、みんなが共通で使うものを使いやすく整理・保管している
- ・必要な機器（PCやテレビ、DVD、オーディオ）を管理・保管している
- ・必要な機器（PCやテレビ、DVD、オーディオ）の使い方を、関係者それぞれが理解している

DO(実施)

4. 各地域の実情に応じた日本語教育の実施

7) 教室の運営・育成

(25) 教室の運営・育成

- ✓ 教室運営に必要な作業を洗い出し、実情に即した運営体制を作っている
- ✓ 協力者の適性や志向、能力をふまえて、教室活動での役割を適切に与えている
 - ・教室運営や活動に関する学習者の意見、問題意識を吸い上げている
 - ・教室の現状を適切に把握、評価し、問題を認識している
 - ・教室に生じた問題に適切に対応している
 - ・教室の新たな課題、目標を設定している
 - ・新たな学習者を教室外から集めている
 - ・教室運営に必要な協力者を集めている
- ・教室設立の理念(教室を作った目的、地域の中での教室の役割、それらを踏まえた活動方法等)を分かりやすく言語化し、指導者・学習者全員に伝え、共有している
- ・学習者相互の人間関係を調整し、学習者同士が関係性を築いていけるような教室を作っている
- 学習者に関する必要な情報を把握している
- 学習者の参加状況を把握しており、必要な場合は対処している
- いろいろなレベル・分野をまんべんなく教えられるようになっている
- 常に向上心を持ち、新たなレベル、分野に挑戦している
- 学習者の信頼を得て、評価されている

8) カリキュラム案の理念に沿った日本語教育の実施

(26) カリキュラム案を理解している

- ・「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的と目標を十分に理解して教室活動を行っている
- ・「カリキュラム案」等の内容を十分に理解し、必要に応じてそれを活用している
- △ 文字や発音、基礎的な文法事項といった言語事項について、学習者や日本語教室の実情に合わせて具体的なカリキュラムを編成し、実際に日本語教育を行っている

(27) 学習者の状況やニーズを踏まえた活動の実施

- ・学習者の状況や日本語レベル、ニーズを考慮した対話活動を支援している
- ・対話などの活動しながら学習者の日本語のレベルやニーズを把握している
- ・学習者が生活の中で必要性を感じる生活上の行為を選び、指導している
- △ 必要に応じて文字や発音、基礎的な文法事項を指導している
- ・学習者のニーズや日本語レベルに沿って、教室活動の目標や活動のねらいを設定している

(28) 課題達成型の活動の実施

- ・活動の目的に合わせて、現実の課題の中から適切な課題を選んでいる
- 課題達成型の活動の中にも対話中心の活動を織り込んでいる
- ・活動の環境に合わせて、現実の課題を活動に適したサイズに切り取っている
- 活動の目的と環境に合わせて、活動を分析し、達成するために必要な下位能力を記述している
- ・活動の目的と環境に合わせて、活動の手順を組み立てている
- ・学習者が課題の達成を実感したり、達成できなかった場合の原因を理解したりできるように、活動を展開している
- 課題達成型の活動を文字学習と連携させている

(29) 行動・体験中心の活動の実施

- ・学習者が実際のコミュニケーション活動を行う、行動・体験中心の教室活動を展開している
- ・学習者が日本語を使って生活できるようになるだけでなく、更に地域住民等との人間関係が広がっていくように行動・体験中心の活動を工夫している

- ・ 体験活動や実物、イラスト、写真などを活用したり、協力者の助けを得るなどし、学習者が体験的に実際のコミュニケーション活動が学べるよう工夫している

(30)対話中心の活動の実施

- ・ 学習者と指導者に対話活動の目的を理解させている
- △ 指導者が日本語の説明や教授に時間を掛けている場合、支援者にそのことを気付かせ、対話活動に向けさせている
 - ・ 活動が行われる教室の事情に合わせて、適切な話題を提供している
 - ・ 指導者・協力者と学習者の間で双方向の発話を促している
 - ・ 参加者が話しやすい雰囲気を作っている
- △ 対話を通して言語学習を起こしている
 - ・ 学習者の日本語力に合わせて適切な話題を提供している
 - ・ 日本語力の不足のため活動が円滑に進まないとき、適切な支援をしている
- 対話中心の活動を文字学習と連携させている
 - ・ 日本社会における日常生活の規範を学ぶことが学習者に対する規範の押し付けとならないような配慮をしている
- 指導者と学習者の間で互いの文化に対する理解が深まるよう対話を盛り込んだ教室活動を行う工夫をしている
- 学習者の反応をよくキャッチし、発話を充分拾い適切に対応している
 - ・ 学習者に十分話させ、一方的な説明をしていない
 - ・ 教室の雰囲気が活発で、楽しい授業を展開している
- 学習者や地域の外国人住民の言語・文化を尊重した言動を持って接している
 - ・ 学習者間や地域住民との相互理解が深まることを目指して学習活動を行っている

(31)専門家や地域住民との協働

- ・ 学習者からの質問が分からなかった場合、自ら調べたり、専門家等の助言を受け解決を図っている
- ・ 必要な情報や、不明なことは、教材例集の情報を活用したり、自ら調べたり、助言者の力を借りるなどしている
- ・ 学習者から複雑かつ深刻な相談を受けた場合、教室の責任者や専門の人につないでいる
- ・ 地域の日本人住民に対して、機会をとらえて、地域の外国人や多文化理解を深める啓蒙事業を企画、実施している
- ・ 教室活動にあたって、地域住民や学習者と母語が同じでかつ滞在時間が長く、日本の生活に詳しい人の協力や参加を得て、より具体的で効果的な教室活動を展開している
- ・ 学習者が社会とのつながりが深まるよう学習活動の工夫をしている
- ・ 学習者が社会の一員として自立した生活を送ることができることを目指した学習活動を行っている

(32)社会・文化的文脈の重視

- ・ 生活上の行為の実現に必要な社会・文化的知識を「標準的なカリキュラム案」の社会・文化的情報や、地域の多言語情報などを活用しながら与えている
- ・ 学習者間や指導者・協力者等との互いの社会や文化の理解が深まるような対話活動を行っている
- ・ 学習者が自分に関することや背景、文化を地域住民側に積極的に伝えることができるような雰囲気作りや活動の工夫をしている
- ・ 学習者の生活場面と密着したコミュニケーション活動を展開している

(33)学習者の主体性の重視

- ・ 学習者と指導者、双方が対等な立場で互いの社会、文化について学べるように活動を工夫している
- 活動が互いに対等な人間関係でつながるよう双方向の活動を行っている
 - ・ 学習者の持つ興味、関心、学習スタイル等、多様な側面に配慮した活動を行っている
- 学習者に自信を持たせ、自律的な態度を養うため、学習者の主体性を重視した活動を行っている

- 学習者のエンパワメントを目標に据えて、自分らしさや自らの力を発揮できるよう学習者を尊重し、勇気付ける活動を工夫している

- ・ 学習者がパソコンで必要な情報を検索できるよう指導している

(34) 地域・学習者に応じた教育内容と教材の選択と工夫

- ・ 地域の実情や学習者の状況に合わせて教材例集や既存の教材を活用したり、教材を工夫、作成している
- ・ テーマによっては、そのテーマに詳しい地域住民を教室に招いたり、学習者と母語が同じ人など協力者を教室に招いたり、外に出て直接行動・体験するなど工夫している
- ・ 必要に応じて学習者の理解を助ける地域での生活に必要な多言語情報やちらし、パンフレット、地図等を活用している

9) 実施の記録・評価

(35) 日々の記録を付けている

- ・ 活動や学習に関する記録を残している
- ・ 活動中・学習中の学習者の様子を記録している
- ・ 学習目標がどのくらい達成できたか把握し、記録している
- ・ 毎回の成果と次回への課題を記録している

(36) 日々の記録を共有している

- ・ 各学習者の様子など、個別の記録を関係者間で共有している
- ・ 活動の工夫を、地域日本語教育コーディネーターや指導者間で共有している
- ・ 指導者間で、建設的に意見を出し合える機会を設けている
- ・ 地域日本語教育コーディネーターと指導者が気軽に相談できる機会を設けている
- ・ 学習者や指導者間、地域日本語教育コーディネーター等の意見に基づき、活動を工夫している

(37) 日々の記録を整理し、まとめている

- ・ 日々の活動や学習の記録を、分類整理して蓄積し共有している
- ・ 過去の取り組みを資料にまとめている
- ✓ 現在の取り組みを以後に活用できる体制を整えている

(38) 評価

- ・ 日本語学習ポートフォリオ（日本語能力評価）の「学習の記録」などを参考にして、学習者と毎日の学習を振り返っている
- ・ 日本語学習ポートフォリオの「社会生活の記録」等を参考にし、学習者の背景や経験を踏まえた活動を企画、実施している
- ・ 「標準的なカリキュラム案」や日本語学習ポートフォリオの「能力記述の一覧」等を参考にし、活動の具体的な達成目標を踏まえて、指導している

CHECK(点検)

5. プログラムの見直し

10) 状況の把握・分析

(39) 学習支援や教室実施時の状況を把握している

- ・ 期間中に生じた活動や教室の問題を把握している
- ・ 期間を通じた対象者の変化を把握している
- ・ 期間を通じた学習支援者の変化を把握している
- ・ 期間中の教室開催場所や開催時間について把握している
- ・ 活動のやり方やカリキュラム・教材の運用の状況を把握している
- ・ 関係者間で情報共有がうまくいっているかどうかを把握している

(40) 関係者の声を収集している

- ✓ アンケートなどを使って学習者の満足度や要望を聞き取る仕組みを作っている
- ✓ アンケートなどを使って指導者の満足度や要望を聞き取る仕組みを作っている
- ✓ 指導者がコース全体や自分自身を振り返る仕組みを作っている
- ✓ 地域日本語教育コーディネーターがコース全体や自分自身を振り返る仕組みを作っている
- ✓ 振り返りを関係者間で共有する仕組みを作っている

✓ 地域住民や協力者、学習者の家族などから意見を聞き取る仕組みを作っている

(41) 当初の計画どおりに実施できたことと、途中で計画を変更したことについて把握している

- ・ 計画どおりに実施できたことを把握している
- ・ 計画どおりに実施できなかったことを把握している
- ・ コース途中の計画変更によるプラスの影響とマイナスの影響を把握している

(42) 具体的な実施状況を分析している

- ・ コース管理・運営上の課題を分析している
- ・ 活動のやり方や内容、方法の現状と課題を発見・分析している
- ・ 毎回の個別の学習活動を分析して、活動の善し悪しを自己評価している
- ・ 様々な分析方法を提供してくれる専門家を確保している

(43) 一定期間の活動の成果を客観的な視点で分析している

- ・ 活動に関する問題の原因を分析するために、様々な見方から考えようとしている
- ・ 自分たちの活動や学習支援の社会的意義を、意見・感想・コメントなどを分かりやすくまとめて第三者に伝えられるようにしている
- ・ 自分たちの活動や日本語教育の社会的意義を、数字やグラフ等を利用して分かりやすく第三者に伝えられるようにしている

(44) 分析結果を適切に解釈している

- ・ 自分たちの分析結果が客観的なものかどうかを関係者間で議論する機会を設けている
- ・ 自分たちの分析結果が客観的なものかどうかをアドバイスしてもらうために専門家の協力を得ている
- ・ 分析結果を適切に解釈するために批判的かつ建設的に意見を交換している

(45) 改善活動を円滑に行うために分析・解釈結果を整理している

- ・ 分析や解釈の結果を分かりやすく整理している
- ・ 分析や解釈の結果を共有する仕組みを作っている

ACTION(改善)

6. プログラムの改善

11) プログラムの改善

(46) 改善計画を検討している

- ・ 地域日本語教育コーディネーターと学習支援者が改善計画を考える機会を設けている
- ✓ 改善計画を関係者間で共有する仕組みがある
- ・ 何を改善すれば問題が解決できるかを理解している
- ・ 複数の解決策を考えている
- ・ 改善計画に学習者の声を反映している
- ・ 効果的な改善活動を行うため、役割分担や今後の計画を明確にしている

(47) 改善活動を実施している

- ✓ 関係者間で役割分担・協力して改善活動をしている
- ✓ 改善活動の結果がそもそもの目的と食い違いがないかを振り返って考える仕組みがある
- ✓ 地域日本語教育コーディネーターや学習支援者が改善活動に素早く取り組むための環境を整えている
- ✓ 現場の改善活動を関係者間で尊重する仕組みがある
- 以後の改善活動を行うために一連の活動を記録する仕組みがある